

大泉桜学園の検証項目（ヒアリング対象と内容）（案）

	対象者	期待された効果	検証項目	主な質問（案）
児童・生徒	児童・生徒会役員	③ 幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性の育成ができる。 （主に道徳、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導）	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況 	<ol style="list-style-type: none"> 役員選挙への立候補は、いつ、どのような理由で決めたか。 5～9年生と一緒に児童・生徒会の活動をするのにやりがいはあるか。 役員会でのあなたの役割は何か。また、上級生からどんな助言を受けたことがあるか。 5～9年生と一緒にのためにやりにくいことや、困ることはあるか。 先生たちは、自分で考えることや自主的に行動すること、自分の言動に責任を負うことを指導していると感じるか。 児童・生徒会の活動で学校がよくなっていくと感じているか。
保護者、地域等	主任児童委員 桜連絡会役員 学校応援団 避難拠点運営連絡会関係者 学校評議員	② 小学校から中学校へ進学する際の段差(学習内容や指導方法の違い)を緩やかなものにし、円滑な移行が図れる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる。 （主に生活指導、特別支援教育）	<ul style="list-style-type: none"> 全学年における標準服の着用の効果 保護者や地域社会、関係機関等との連携協力の状況 	<ol style="list-style-type: none"> 全学年に標準服または標準服に準じた服の着用を求めて指導することは、小中一貫教育校として教育効果があると感じているか。 小中一貫教育校となり、図書館開放や体育館開放委員会、さくらっ子広場等の学校応援団の活動の内容や運営など、変化はあったか。 小中一貫教育校となり、クラブチーム、町会等、地域の諸活動と学校の関わりや児童・生徒の参加状況に変化はあったか。 小中一貫教育校が開校し、地域や保護者等の学校に対する印象に変化はあったか。 小中一貫教育校が開校し、児童・生徒の様子に変化を感じるか。 小中一貫教育校が開校し、クラブチームの活動や児童・生徒の参加状況に変化はあったか。 小中一貫教育校が開校し、避難拠点としての運営の在り方に変化はあったか。 青少年の健全育成に関わる地域の諸活動に対する児童・生徒の参加状況に変化はあったか。 小中一貫教育校となり、保護者会の組織と運営を新しくしたことで、保護者会の活動に変化はあったか。 学校評議員の活動を通じて、小中一貫教育校の開校に伴う学校や児童・生徒の様子、保護者や地域との関係等について変化を感じているか。
		⑤ 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を得られる。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができる。 （主に保護者、地域）	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会と連携した生涯スポーツの推進 地域社会との連携と小中一貫教育校による学校・家庭・地域社会（避難拠点、青少年育成など）との連携状況 P T A 組織や学校評議員会の状況 	

	対象者	期待された効果	検証項目	主な質問（案）
教職員	5～7年を担当したことがある教員 教科担任制を担当したことがある教員	① 9年間を見通したカリキュラムを作成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができる。 (主に学習指導、体力向上)	<ul style="list-style-type: none"> 4-3-2の区分における発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導の充実 5・6年生の一部教科担任制の効果 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅱ期ではどのような学習指導の工夫や配慮を行ったか。 教育課程編成や各教科・領域における年間指導計画の作成に当たり、9年間を見通した教育活動を効果的に行うためにどのような工夫や配慮を行ったか。 一部教科担任制にしたことでどのような児童の変化があったか。 一部教科担任制について、教員と児童それぞれの成果と課題は何か。 一部教科担任制に対する児童と保護者それぞれの反応にはどんなものがあったか。 一部教科担任制の実施を通じて、7年生以降の教科担任制への接続の効果を感ずるか。また、効果を高めるためにどのような工夫が必要だと感ずるか。 一部教科担任制における中学校籍の教員の連携についての期待と課題は何か。
			<ul style="list-style-type: none"> 5・6年生の50分授業の効果 	<ul style="list-style-type: none"> 5・6年生の授業時間が50分となることについて、教員と児童それぞれの成果と課題は何か。 50分授業に関する児童と保護者それぞれの反応にはどんなものがあったか。 50分授業と授業の間の休み時間が10分の生活時程の実施を通じて、7年生以降の学習面における接続の効果を感ずるか。また、効果を高めるためにどのような工夫が必要だと感ずるか。 授業の間の休み時間が10分となり、中休み（20分）がなくなったことに対する児童や保護者の受け止めに変化を感ずるか。 5・6年生の年間の授業時数が他の小学校に比べて多いことによる成果は何か。
	校内研究担当教員 算数・数学科教員 英語科教員		<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた指導や補充的な学習などの個に応じた指導等の充実に向けた教員間の協力の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 算数・数学、外国語活動・英語における習熟度別少数指導において、9年間を見通した指導を充実させるためにどのような工夫や配慮をしているか。 放課後や夏季休業中の補充学習について、9年間を見通した指導を充実させるためにどのような工夫や配慮をすしているか。 小中一貫教育校となり、教科指導に関する校内研究や教員同士の連携についてどのような変化や工夫、努力があったか。

	対象者	期待された効果	検証項目	主な質問（案）
教職員	校内研究における関係教員		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の学習における観点別学習状況の評価や評定の状況 	① 教科指導に関する研究の取組内容は何か。また、研究の進め方において小中一貫教育校としての工夫や配慮はあるか。 ② 小学校における評価・評定から中学校における評価・評定への変化について、どのような指導の工夫や配慮を行ったか。
	校内研究や体育指導に関する関係教員		<ul style="list-style-type: none"> 体力向上に向け指導の充実にかかわる教員間の協力の状況 	① 小中一貫教育校における体力向上の取組として、マラソンや縄跳びの充実を取り上げた理由は何か。 ② 5年生からの部活動参加は、児童・生徒の体力や意欲向上に対する効果を感じるか。 ③ マラソンや縄跳びの取組は、9年間を見通した体育の指導においてどのような効果が感じられるか。
	生活指導担当教員	② 小学校から中学校へ進学する際の段差(学習内容や指導方法の違い)を緩やかなものにし、円滑な移行が図れる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる。 (主に生活指導、特別支援教育)	<ul style="list-style-type: none"> 不登校や問題行動の状況 	① 小中一貫教育校における不登校や問題行動に関する対応について、どのような工夫や配慮を行っているか。 ② 組織的対応を行うに当たり、小学校籍の教員と中学校籍の教員の連携についてどのような工夫や配慮をしているか。
	生活指導担当教員		<ul style="list-style-type: none"> 学校の生徒指導に取り組む体制や問題行動への対処の状況 	① 生活指導部の組織づくりや危機管理マニュアル、避難訓練等の安全指導の計画について、小中一貫教育の視点で工夫や配慮をしている点は何か。 ② 小学校籍の教員と中学校籍の教員が連携して指導に当たる際の成果と課題は何か。 ③ II期のリーダーとなる7年生の指導について、どのような工夫や配慮を行ったか。
	7年生の学級編成に関わった教員 養護教諭 特別支援教育コーディネーター		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の取組状況 	① II期の発達段階や中1ギャップの対応を踏まえ、生徒の学校生活への適応についてどのような教員の連携を行ったか。 ② 配慮を要する児童・生徒の早期発見、早期対応に向けた校内の体制づくりについてどのような工夫や配慮を行っているか。 ③ 配慮を要する児童・生徒への9年間を通した継続的な支援について、どのような工夫や配慮を行っているか。 ④ スクールカウンセラーや心のふれあい相談員、学校生活支援員等の校内の支援体制づくりにおいて、どのような工夫や努力をしているか。 ⑤ 適応指導教室や通級指導教師を始め、教育相談室、子ども家庭支援センター等の外部機関との連携について、どのような工夫や努力をしているか。

	対象者	期待された効果	検証項目	主な質問（案）
教職員	養護教諭 栄養士		<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の体格、疾病等の状況 	① 二つの保健室、二人の養護教諭の体制の中で、健康診断や病気、けがの対応について、どのような工夫や努力をしているか。 ② 身体計測や健康診断等を通じて、児童・生徒の健康に関する指導や支援について工夫や努力をしていることは何か。 ③ 9学年分の児童・生徒の給食を実施するために、どのような工夫や配慮をしているか。 ④ 交流給食の実施を通じて、異学年の児童・生徒の関係づくりについてどのような成果があったか。
	各学校行事の担当 教員 栄養士 担当教員	③ 幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性の育成ができる。 （主に道徳、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導）	<ul style="list-style-type: none"> たてわり活動や合同行事等の異年齢集団活動を通じた豊かな人間性や社会性の育成に向けた指導の状況 伝統文化理解教育の実施状況 	① 入学式や卒業式などの儀式的行事において、小中一貫教育校としての工夫や配慮を通して、児童・生徒の成長をどのように感じているか。 ② 運動会や桜祭などの全校児童・生徒が参加する学校行事を行うに当たり、工夫や努力をした点、困難を感じた点は何か。また、児童・生徒の成長をどのように感じているか。 ③ 9年間を見通した日本の伝統文化理解教育にかかわる学習について、児童・生徒の成長をどのように感じているか。また、その教育効果についてどのように感じているか。
	研究担当教員	④ 小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が今まで以上に構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができる。 （主に学校運営）	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校教員の相互協力関係の構築 校内研究の実施状況と小中一貫教育の研究 	① 校内研究の推進にあたり、小学校籍の教員と中学校籍の教員が一緒に活動するための工夫や配慮は何か。 ② これまでの研究テーマ、研究内容、成果と課題、今後の研究テーマ、研究内容について教員の取組や協力はどんな状況か。
	事務主事 副校長 分掌主任 教務担当教員		<ul style="list-style-type: none"> 学校組織（校長1名・副校長3名体制）、兼務発令、校務分掌、組織体制、用務、施設管理、給食、事務、諸会議の運営等の小中一貫教育校としての運営状況 	① 小学校籍の教員と中学校籍の教員が協働する分掌業務について、組織の一体化による成果と課題は何か。 ② 3人の副校長による分掌業務の分担についての課題は何か。 ③ 学校を運営するに当たり、1人の校長、3人の副校長による意思決定の在り方についてどのような工夫や配慮を行っているか。 ④ 用務や給食、学童擁護員、施設監理員の業務委託等、学校の管理や運営に必要な職員の管理について、どのような工夫や配慮を行っているか。

	対象者	期待された効果	検証項目	主な質問（案）
	事務主事 教員 司書担当教員 学校図書館支援員	⑥ 施設整備における効果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校の財務運営の状況 職員室、東校舎・西校舎、渡り廊下、校庭、ランチルーム、多目的室、プール、体育館、学習室、保健室、相談室、個別学習室、学校図書館ほか 	<p>① 既存の学校施設を生かした施設一体型の小中一貫教育校として、どのような利点や課題があるか。</p> <p>② 施設補修や日常の施設管理について、特に力を注いでいる点は何か。また、小中一貫教育の推進に寄与することは何か。</p> <p>③ 体育館やプール、校庭、特別教室等については、既存施設が小学校用と中学校用の二つがあることの利点と課題は何か。</p>
	校長 事務主事	⑦ 小中一貫教育の課題を解決し推進するための先導的な役割、通学区域と学校選択制度、教育委員会の役割	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育校への支援および小中一貫教育の充実・推進の状況 	<p>① 1年生および7年生の入学にあたり、通学区域の在り方や事前の保護者等への説明についてはいりよや努力をしている点は何か。</p> <p>② 中学校選択制度による影響はあるか。ある場合はどのような影響があるか。</p>